

120周年史刊行にあたって

2026年3月14日、当社は創業120周年を迎えました。

1906年（明治39年）に創業者五十嵐健治が東京日本橋呉服町に「白洋舎」の看板を掲げて以来、幾多の転換期を乗り越え今日を迎えられましたのも、ひとえに皆さまのご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

当社の歴史は、まさしく挑戦の歴史でありました。120年の道のりは決して平坦ではなく、数々の苦難の連続でしたが、諸先輩方が「奉仕の徹底」「開拓者精神」を胸に乗り越えてきたその歴史を記録することが、120周年史刊行の意義の一つでございます。本誌が、皆さまに当社の歴史についてご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

引き続き、「人々の清潔で、快適な生活空間づくりのために、たゆまぬ技術革新と感動を与えるサービスを提供し、社会に貢献します」という経営理念の実現を目指し、グループ一丸となって尽力してまいります。
皆さまにおかれましては、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
五十嵐 瑛一

1 | 白洋舎について

創業の精神	04
ドライクリーニングの開発	06
事業案内	08
白洋舎の創業に貢献した功労者	10

2 | 120年の歩み

創業からの20年	12
発芽期の10年	14
戦争と敗戦	16
敗戦からの復興	18
復興から近代化	20
中興期の隆盛	22
歴代の車両	24
景気拡大	26
バブル景気と崩壊	28
創業100周年と新世紀	30
変革の時代と未来を見すえて	32

3 | 現在とこれから

サステナビリティの取り組み	35
会社概要	36
ネットワーク	37
記念企画のご案内	38



創業の精神

「奉仕の徹底」と「開拓者精神」



創業者の言葉

—— 他人の益をはかり、他人をよろこばす、
人生これにまさる愉快なことはありません。



経営理念

人々の清潔で、快適な生活空間づくりのために、
たゆまぬ技術革新と感動を与えるサービスを提供し、
社会に貢献します

基本精神

奉仕の徹底

常に、お客さま、取引先、従業員、株主、地域社会のそれぞれの立場に立って、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにします。

一人代表

白洋舎の従業員であることを誇りに思い、一人ひとりが白洋舎の代表として行動します。

開拓者精神

業界のリーディング・カンパニーとして、たえず新しいサービスや技術に挑戦し、最先端を走り続けます。

経営ビジョン

お客さま第一

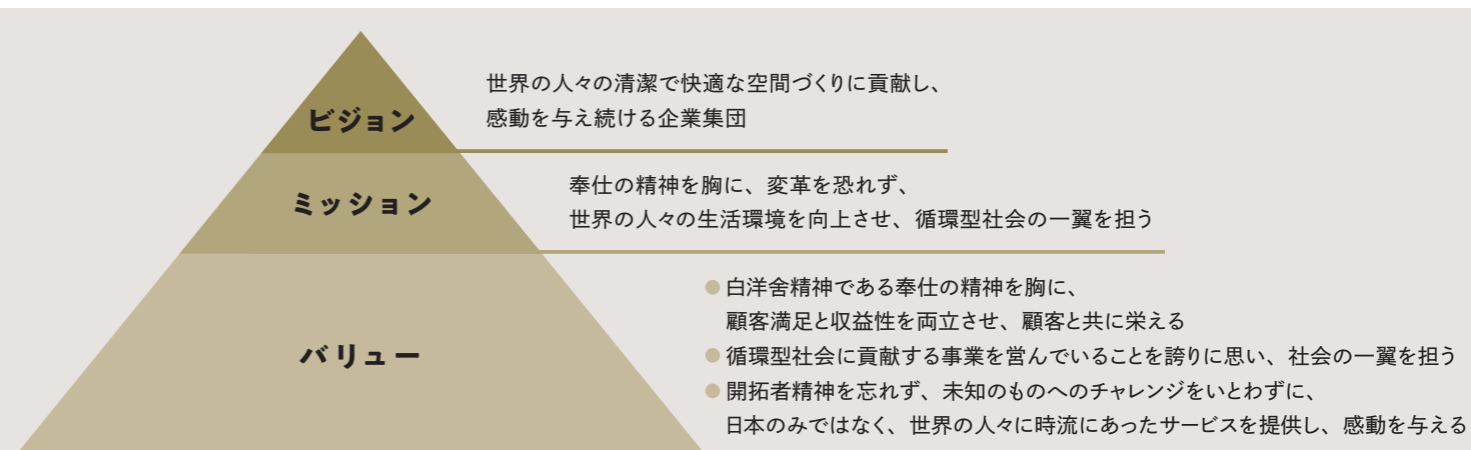
私たちは、蓄積された技術、心のこもった接客を通して、お客さまにご満足いただけるトータル品質を提供します。

魅力ある職場

私たちは、白洋舎ブランドの担い手として、お客さまから信頼を得られるように全員が知識を習得し、明るく魅力的な職場をつくります。

自然との調和

私たちは、自然環境と地域社会の安全を守り、健康で快適な生活の増進に貢献します。



※ビジョン：当社が目指す「あるべき姿」、未来像 ※ミッション：当社が果たすべき使命・社会的存在意義 ※バリュー：ミッション、ビジョンを達成するための行動指針

ドライクリーニングの開発

1 蒸洗濯との出会い

明治時代、日本ではまだ「洗濯」といえば水洗いが主流であり、衣服の丸洗いは非常に手間のかかる作業でした。創業者五十嵐健治は、御用聞きとして訪れた文部大臣・牧野伸顯伯爵夫人から「ヨーロッパには蒸洗濯という便利な洗濯法があり、水を使わずとも羽二重の白無垢を綺麗に洗い上げる」という話を聞かされます。

この革新的な技術への関心は、健治の探究心を大きく高めました。

東京高等工業学校（現：東京科学大学）の吉武栄之進教授から、蒸洗濯が欧米では「ドライクリーニング」と呼ばれ、揮発性溶剤を用いる洗浄方法として広く普及していることを教わりました。さらに、ドイツの技術に詳しい農商務省技師・山口貞雄氏を訪ね、専用の機械設備が必要であること、日本ではまだ導入されていないことを知りました。

一方で、当時の日本では、長手袋や羽毛のボアを洗うために、一部の上流階級が品物を海外へ送っていたという現状も耳にしました。健治はその状況を憂い、「もしドライクリーニングが完全にできれば、国家社会に与える利益は莫大なものだ。何としてもドライクリーニングの研究を完成して、早く社会の需要に応じたいものだ」と考え、ドライクリーニングの研究に本格的に取り組む決意を固めました。



◀ クリーニング業を志した頃

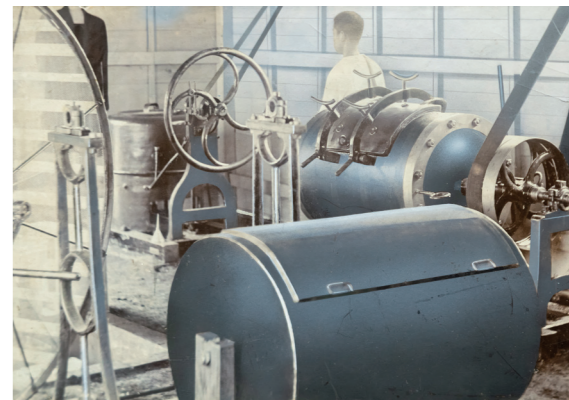
2 試行錯誤の連続と苦闘の日々

当時の研究環境は決して恵まれたものではありませんでした。

健治が研究室として確保したのは、台所の片隅を板で囲った、わずか一坪ほどの小さな空間でした。限られた道具を使い、工夫を重ねながら研究を進めるしかありませんでした。揮発性薬品を扱う作業環境は過酷で、わずか30分の作業で顔は紅潮し、頭痛やめまいに襲われ、意識が朦朧とするほどでした。また研究のため、自らの衣類を次々と損耗させることもありました。

しかし、試行錯誤の末にたどり着いたベンゾールは、従来の揮発油を凌ぐ洗浄力を発揮し、洋服や羽毛製品を美しく仕上げることができました。

数々の困難に直面しながらも、健治は強い意志で研究を続け、1907年（明治40年）4月、日本で初めてとなるドライクリーニングの実用化に成功しました。



▲日本初のドライクリーニング機

3 事業化への挑戦と日本初のドライクリーニング工場設立

ドライクリーニングにより、新品同様に仕上げられた洋服をご覧になった三越（現：(株)三越伊勢丹ホールディングス）の重役のみなさまは大変驚かれ、大いに称賛・激励して下さいました。彼らの支援を受け、品川大井町に日本初のドライクリーニング工場を設立します。日本では全く前例のない事業でしたが、自身に与えられた使命である信じ、ドライクリーニングの普及に邁進しました。



▲日本初のドライクリーニング工場

事業案内

白洋舎では、個人向けのクリーニング事業と法人向けのレンタル事業を展開しています。創業から120年、積み重ねてきた専門知識と技術を活かし、高品質なサービスを提供しています。



クリーニング事業

日本で初めてドライクリーニングを実用化したパイオニアとして、品質・技術の向上に努めています。店舗のほか、クリーン・リビング・パートナーによる集配、宅配サービス「らくらく宅配便」の3つの営業窓口を通じ、全国で幅広くサービスを提供しています。



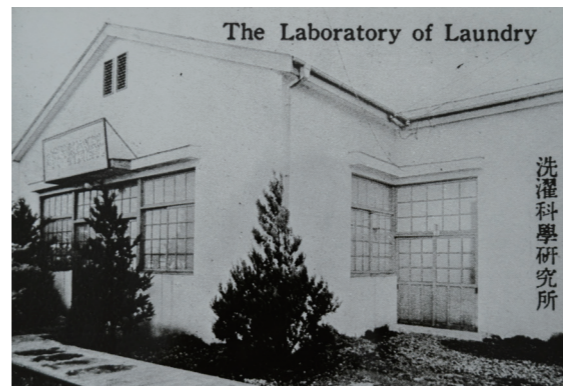
ユニフォームレンタル事業

ユニフォームを、クリーニングとメンテナンス付きでレンタルする事業です。煩雑な在庫管理や修理・サイズ交換などは当社が一括して対応するため、業務効率の向上に寄与します。衛生的で機能的なユニフォームを提供し、従業員の方が安心して働ける環境づくりに貢献しています。



リネンサプライ事業

ホテルやレストランに欠かせないシーツ・タオルなどのリネン類を、クリーニング付きでレンタルする事業です。洗濯科学研究所での洗浄方法の研究・洗浄試験など、科学的根拠に基づく管理により、ラグジュアリーホテルからも信頼される品質を実現しています。



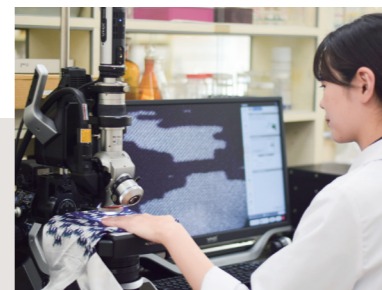
洗濯科学研究所

1934年(昭和9年)、創業者の「洗濯をひとつの学問につくりあげたい」という願いから、白洋舎化学研究所(現:洗濯科学研究所)を設立しました。長年蓄積された研究成果をもとに、工場で運用することを想定した技術開発を中心に研究を行っています。



技術開発

新たなクリーニング技術の開発に向けた研究を行っています。多様な繊維製品に対応する最適なクリーニング方法の開発や付加価値の高い加工技術の研究を行っています。



品質管理

工場の洗浄管理試験および定期的な設備点検を実施し、常に最適な洗浄状態を維持することで、安定的に高品質なサービスの提供を実現しています。



環境

大切な地球環境を守るため、工場排水の分析や新しい溶剤の開発、省エネルギーや節水につながる洗浄方法の研究を行っています。

白洋舎の創業に貢献した功労者



藤村 喜七氏

越後屋の時代から三越（現：(株)三越伊勢丹ホールディングス）に60年にわたり勤めあげ、百貨店業の黎明期を支え、その発展の礎を築きました。五十嵐健治が独立を志して辞職願を提出した際には一度諭しましたが、その強い決意を認め、以後支援を続けました。



鬼頭 幸七氏

いとう呉服店（現：(株)大丸松坂屋百貨店）の発展に尽力し、近代的な百貨店への変革を推進しました。当社名古屋支店開設にあたっては工場用地を提供し、「いとう呉服店専属工場」の名称の使用も認めました。後に当社役員として経営にも携わりました。



廣瀬 太次郎氏

三井呉服店（現：(株)三越伊勢丹ホールディングス）で働いていた廣瀬氏は、健治の強い向学心を知り、入社を勧めました。健治は宮内省係として約10年の勤務を経た後、廣瀬氏が退社し独立されたことを契機に、自らも退社しました。後に当社役員として経営にも携わりました。



伊藤 次郎左衛門氏

いとう呉服店（現：(株)大丸松坂屋百貨店）の社長で、米国で体験した迅速な洗濯サービスに感銘を受け、当社名古屋支店開設を後押ししました。

HAKUYOSHA HISTORY 1906 -



創業からの20年

HAKUYOSHA HISTORY 1906-1925

1906

3月

白洋舎創業

東京日本橋呉服町五番地に、間口2間半、奥行5間、2階建の古い家を借り受け、「白洋舎」(資本金300円)を創業しました。



1913

5月

本社を東京市芝区西久保桜川町(現:虎ノ門)に移転

8月

洗濯雑誌

『家庭と洗濯』発行

1919

11月

渋谷工場用地購入

1920

11月

渋谷工場落成

工場用地として取得した中渋谷(現:神山町)に渋谷工場を建設しました。工場部門はすべて渋谷工場に移設され、芝区の本社との連絡は馬車から貨物自動車になりました。



1924

12月

小石川営業所を開設

関東大震災により東京の中心部はほとんどが焼け野原となりました。お得意さまの多くが山の手へ転居したため、貨物自動車を購入し、効率的な営業活動(外交)を行う目的で、小石川営業所を開設しました。



since
1906

1910

1910

3月

名古屋支店を開設

いとう呉服店(現:(株)大丸松坂屋百貨店)の熱心な誘致と工場用地の提供を受け、いとう呉服店の専属工場として名古屋支店を開設しました。



1920

1914

5月

名古屋で
楽隊パレード

1920

5月

株式会社に法人化し、「白洋舎クリーニング株式会社」に商号変更

1921

4月

大阪支店を開設

大阪で洋服が流行し始めている状況を見て、高麗橋4丁目に大阪支店を開設しました。支店開設当初より、多くのお客さまからクリーニングの依頼をいただきました。



1923

9月

関東大震災により被災

芝区の本社は全焼し、渋谷工場もほぼ倒壊し操業不能となり、事業継続は困難を極め、創業以来18年間の努力は一時にして水泡に帰しました。しかし、善後策を着実に実行し、復興に向けた再稼働を果たしました。



社会の
出来事

1906/3月

鉄道国有法公布

1914/7月

第一次世界大戦
勃発

1919/6月

ベルサイユ
講和条約調印

1920/3月

戦後恐慌
始まる

10月

第1回国勢調査
実施

1924/7月

メートル法施行

発芽期の10年

HAKUYOSHA HISTORY 1926-1935

1926

10月

「洗濯の話」ラジオ放送

前年7月に始まったばかりのラジオ放送で、「家庭洗濯の仕方」を紹介しました。洋服が一般的となり、洗濯への関心が高まっていたため、大きな反響を呼び、その後、各地の放送局から多数の依頼が寄せられました。



1929

7月

資本金を35万円に増資

1932

5月

札幌支店を開設

1932

6月

多摩川工場落成

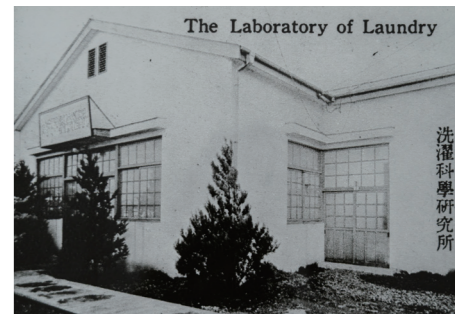
業界の急速な発展を見据え、事業拡大を図るため、新工場を建設しました。最新の機械を導入し、当時「東洋一の大工場」と呼ばれました。



1934

4月

白洋舎化学研究所
(現:洗濯科学研究所)を設置



1930

1927

7月

芝区の本社を再建

関東大震災で焼失した芝区の本社を再建しました。



1927

12月

株式会社白洋舎へ商号変更

1931

6月

横浜支店を開設

1933

4月

静岡支店・仙台支店を開設

1933

7月

商標の設定

商標の図案を募集するため、東京朝日新聞と東京日日新聞に広告を掲載しました。約200点の応募の中から選ばれた商標は、1990年まで57年間使用されました。



1935

5月

多摩川工場で「家庭洗濯科学展覧会」を開催

創業30周年を記念し、「家庭洗濯科学展覧会」を開催しました。最新技術や機械の展示を行い、3万人以上が来場しました。



社会の出来事

1926/12月

大正天皇崩御、「昭和」に改元

1927/12月

上野～浅草間に地下鉄開通

1929/10月

ニューヨーク株式大暴落

1933/3月

日本、国際連盟を脱退

1934/9月

室戸台風襲来

1935/2月

築地市場が開場

戦争と敗戦

HAKUYOSHA HISTORY 1936 - 1945

1936

7月

スタンダード石油会社と
ドライクリーニング溶剤「サバゾール」
輸入契約

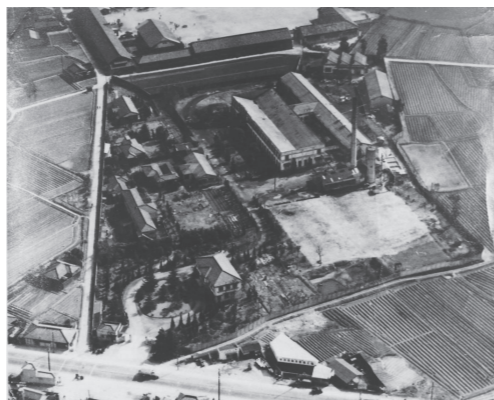
ドライクリーニングの安全性を高めるため、
米国政府が推奨する溶剤の一つである
「サバゾール」の輸入契約を締結しました。

1937

5月

大阪工場落成

お得意さまの増加に伴い、大阪府
吹田に総建坪1,500坪の新工場を
落成しました。米国製の最新機械を
設置した近代的な工場でした。

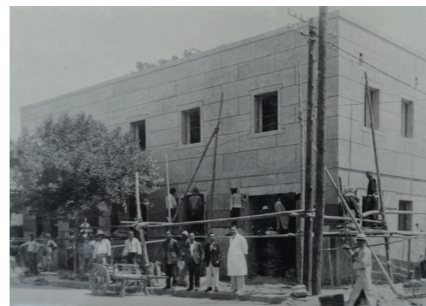


1939

9月

北京工場建設

日中友好を願い、北京に工場
を建設しました。現地従業員
を積極的に雇用し、研修生
を日本に派遣するなど、人材
育成にも尽力し、クリーニング
事業を通じた日中交流の礎と
なりました。



1943

5月

多摩川工場が
海軍の指定工場となる

1936

10月

福岡支店を開設

前年に五十嵐健治が
全国産業安全大会の
ために九州を訪れたこと
をきっかけとして、当社
の技術とクリーニング品質
を提供するため、福岡
支店を開設しました。



1939

3月

社歌完成

作詞 北原白秋氏、作曲
山田耕筰氏による社歌
が完成しました。



1940

1941

5月

社内報『さきがけ』(魁)
発刊

梅の花が霜雪に耐え咲き誇り、芳香
を放つ姿になぞらえ、五十嵐健治に
より命名されました。研究を重ね
技術の粋を極め、お客さまに喜んで
いただくために、従業員を指導・督励
する目的で発行されました。



1945

8月

終戦

本社や多摩川工場を含む
6か所の工場と、19か所の
営業所を焼失し、従業員数
も戦前の3分の1となるなど、
大きな被害を受けました。
軍指定工場の解除を受け、
民需転換に向けた工場再建
計画を新たにスタートしました。



社会の
出来事

1936/2月

二・二六事件発生

1937/7月

盧溝橋事件
(日中戦争) 勃発

1939/9月

第二次世界大戦
勃発

1942/8月

石鹼配給制
開始

1943/7月

東京都制施行

1945/8月

ポツダム宣言
受諾(終戦)

敗戦からの復興

HAKUYOSHA HISTORY 1945 - 1955

1945

10月

進駐軍工場としてP・Dの指定を受ける

終戦後、アメリカ進駐軍の要請により、厚木飛行場内に工場を設置しました。この他、札幌、仙台、多摩川、静岡、名古屋、大阪、福岡の各工場も指定を受けました。

※P・D: Procurement Demand(物資調達要求)



1951

7月

資本金を
3千2百万円に
増資

1953

10月

東京と名古屋で
宣伝カーによる
街頭宣伝実施



1954

2月

資本金を
5千万円に
増資

1955

当社の広告 国際競技で2位

当社の広告が全米洗濯業大会で銀メダルを獲得しました。広告戦略が国際的に評価され、ブランドイメージ向上に貢献しました。



1955

11月

五十嵐健治 藍綬褒章を受章

創業以来、クリーニング技術の研究や設備の充実に努め、業界の振興に寄与したことが認められました。



1950

1945

10月

京都支店を
開設

1946

11月

湘南支店を
開設

1948

3月

株式を公開するとともに
資本金を3百万円
に増資

7月

資本金を8百万円
に増資

1950

1月

資本金を
1千6百万円
に増資

1950

3月

溜池サービス店
を開設
日本初の外国人
向けクリーニング
店を港区溜池に
開設しました。



1955

3月

創業50周年を 迎える

数々の困難を乗り越え、技術革新と幅広いサービスを全国に展開し、売上高5億円を達成しました。



1955

4月

「デラックスクリーニング」を 開始

衣類の多様化が進んだことを背景に品質・高級志向の「デラックスクリーニング」を開始しました。

社会の
出来事

1947/5月

日本国憲法
施行

1950/6月

朝鮮戦争勃発

7月

クリーニング業法
施行

1951/2月

ドライクリーニング試験が
国家試験となる

1954

神武景気始まる

1955/9月

日本、GATTに加盟

復興から近代化

HAKUYOSHA HISTORY 1956 - 1965

1956

8月
大阪支店
無災害100万時間で
表彰

1959

6月
第1回「国際クリーニング生産性
会議」を東京で開催

カリフォルニア・ドライクリーナーズ協会と日本クリーニング生産性協議会は、初めての国際会議を東京で開催しました。社長の五十嵐丈夫が議長を務め、アメリカ、カナダなどから3日間で約2,000名が参加しました。



1962

2月
共同リネンサプライ株式会社を設立

リネンサプライ業がクリーニングの新分野として登場し、当社は共同リネンサプライ株式会社を設立しました。リネンサプライ業は、1964年の東京オリンピック、1970年の大阪万国博覧会を契機に大きな成長を遂げました。



1964

9月
リネンサプライ
事業部、
海外事業部を
設置

1965

6月
恒隆白洋舎を設立
香港の大手企業・恒隆
公司からの協力要請を
受け、香港に恒隆白洋舎
有限公司を設立しました。



1960

1956

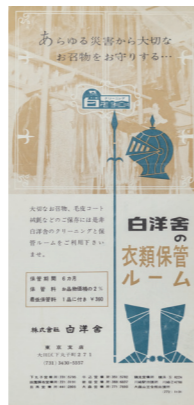
10月
PR誌『うららか』
発行

多年の経験と研究を通じて蓄積されたクリーニングや洗濯に関する知見を、家庭で役立てていただくことを目的として、お客さま向けの冊子を発行しました。



1961

「保管サービス」開始
「お部屋が広くなります」を
キャッチフレーズに、シーズン
オフの衣類をクリーニング
して保管する「保管サービス」
を全国で展開しました。



1961

2月
東京東支店を
開設

1963

「防災加工」
開始

1963

8月
神戸支店を
開設

1965

4月
デラックスクリーニングを改め
「ローヤルクリーニング」開始
織物や素材を熟知した技術者が、お客さま一人ひとりの要望に沿った仕上がりを提供する「ローヤルクリーニング」を開始しました。



社会の
出来事

1957/9月
環境衛生関係営業の運営の
適正化に関する法律施行

1959/4月
皇太子(明仁上皇)
ご成婚

1962/10月
キューバ危機

1964/10月
第18回オリンピック
東京大会が開催

1965/10月
いざなぎ景気始まる

中興期の隆盛

HAKUYOSHA HISTORY 1966-1975

1966

6月
東京西支店を開設

10月

資本金を10億円
に増資

1967

4月
本社社屋完成

渋谷区大向に鉄筋
3階建て1,234㎡
の新本社が落成し、
5月より業務を開始
しました。



1969

2月
工業洗濯事業所を開設

8月

武蔵野工場を
武蔵野支店とする
ケミサプライ東部・西部
事業所を開設

1970

2月
ホテルリネン
サプライ工場
落成

1970

3月
白洋舎ハワイ
株式会社
(現:白洋舎
インターナショナル)を設立

ホノルランドリー社からランドリー・ドライクリーニング
部門を譲り受け、白洋舎ハワイ株式会社を設立しました。
2店舗からスタートし、90年代には19店舗、取引先
ホテル35社を持つまでに成長しました。



1973

8月
資本金を13億2千万円
に増資

10月

厚木支店を開設

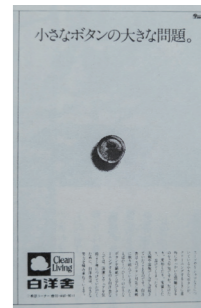
11月

千葉支店・リネン
サプライ千葉事業所
を開設

1974

11月
第17回「日本雑誌広告賞」
金賞受賞

社団法人日本雑誌広告協会
主催の「日本雑誌広告賞」で、
1年間に掲載された広告
4,087点の中から金賞33点が
選出され、当社が「週刊新潮」
新春号に掲載した広告がその
内の1点に選ばれました。



1970

1967

2月
「ケミサプライ(ダストコントロール)」
事業を開始

ケミサプライは、ケミマット(玄関用吸塵
加工マット)、モップ、ダスターをレンタル
するサービスです。ケミモップ・ケミダスター
は、掃除の4つの基本機能(払い落とす・
拭き取る・吸い取る・洗い流す)を1つで
可能にするもので、業務用・家庭用に
サービスを展開しました。



1967

8月
東京北支店を
開設

1968

4月
「クリーニング
技術者制度」
導入

従業員の技術の向上と、高い技術を持つ従業員の一層
の技能発揮を目的に、「クリーニング技術者制度」を
スタートしました。現在ではさらなる上級資格「マイスター
制度」を設け、技術者の育成と品質向上に取り組んで
います。



1970

8月
広島支店を
開設

1972

3月
大宮支店を
開設

1972

9月
ニューシンボルマーク
「クリーンリビング」スタート

明るく清潔な企業イメージを表現するため、スカイブルー
を基調とし、雲をあしらったデザインを採用しました。また、
従来の「クリーニング」という枠にとらわれない事業領域へ
の展開を目指し、シンボルマーク「Clean Living」を掲げ、
“白洋舎はきれいな世界をつくります”をキャッチコピーに、
さらなる発展を目指しました。



1975

2月
ユニフォーム
レンタル事業
を開始

外食産業の出店数の増加、企業の労働力
確保や職場環境の改善において、ユニ
フォームの重要性が高まっていることから、
需要の拡大が見込まれました。



社会の
出来事

1967/12月
佐藤栄作首相が
非核三原則を表明

1968/12月
取扱絵表示
導入

1970/3月
日本万国博覧会(EXPO'70)
が大阪で開催

1972/5月
沖縄返還

1973/10月
第一次オイル
ショック

1975/3月
山陽新幹線
東京～博多間全通

歴代の車両

創業以来、白洋舎は事業の拡大とともに営業地域を広げてまいりました。
その道のりを支え、共に歩んできたのが様々な車両です。
創業当時の箱車から、時代を象徴する名車など、
白洋舎の歴史を彩る車両の変遷をご紹介します。



創業の頃 箱車



大正15年頃



昭和20年代 宣伝カー



昭和30年代



ニューシンボルマーク
スタート



令和4年 環境に配慮した
電気自動車を導入

明治(創業時)

大正

昭和初期

昭和30年

昭和40年

平成

令和



大正7年頃



昭和2年

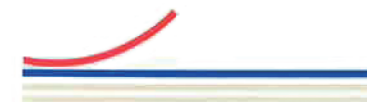


昭和30年代



昭和40年代
ニューシンボルマーク

Hakuyosha



CI導入

景気拡大

HAKUYOSHA HISTORY 1976 - 1985

1976

3月

ハウジング部門を設置

ケミサプライ事業部にハウジング部門を設置しました。「住まいのことならなんでも」を合言葉にじゅうたん・カーテンの出張クリーニング、家屋清掃、人工芝施工、白蟻駆除、ふとん丸洗いなど多彩なサービスを展開しました。



1979

10月

無塵衣・無菌衣のクリーニングを開始

電子、精密機械、化学、食品、製薬、病院など、微細なホコリや細菌の除去が求められる分野に向けて、D&B (Dust-free・Biologically-clean) の無塵衣・無菌衣のクリーニングサービスを開始しました。



1982

12月

相模支店を開設

1982

「カスタム・クリーニング」を開始

衣類の高級化およびファッション化に伴い、「カスタム・クリーニング」を新たに開始しました。専任コンサルタントがお客さまのご要望を伺い、高い技術ときめ細かいサービスでお応えするものでした。



1980

1979

6月

「営業員資格制度」を導入

営業知識と接客技術を高め、お客さま満足の向上を目的として、筆記試験とロールプレイングからなる「営業員資格制度」を導入しました。



1982

3月

「五十嵐健治記念洗濯資料館」オープン

多摩川工場開設50周年を記念し、「五十嵐健治記念洗濯資料館」を開設しました。創業者のあゆみ、アイロンや箱車など洗濯に関する資料などを展示していました。



1984

4月

レンタル相模事業所を開設 奈良店を奈良支店とする

1984

9月

R・S・S(靴・鞆・傘などの修理システム)事業を開始

ブーツの流行を機に、靴修理事業を再開しました。最新の欧州のR・S・Sシステム(靴・鞆・傘などを修理するシステム)を導入し、クリーンリビング化の一環として各地の店舗に展開しました。



社会の
出来事

1976

クリーニング所
施設数10万突破

1979/2月

第二次オイルショック

1980/12月

日本の自動車生産、
世界一に

1982/4月

500円硬貨発行

1983/4月

東京ディズニーランド
開園

1984/9月

「クリーニングの日」
制定

11月

15年ぶりの新札発行

バブル景気と崩壊

HAKUYOSHA HISTORY 1986-1995

1986

3月
資本金を
24億1千万円
に増資

1987

1月
大阪南支店を
開設

1987

9月

三浦綾子氏著『夕あり朝あり』が出版される

新聞連載小説として執筆された、五十嵐健治の生涯を描いた小説『夕あり朝あり』が新潮社より刊行されました。作者の三浦綾子さんは敬虔なクリスチャンで、健治とは信仰を通じて知己を得ました。



▲前列右から2人目：三浦綾子氏、3人目：五十嵐健治氏

1988

4月

本社ビル落成

旧本社（渋谷区大向）にあった工場機能は、多摩川工場に集約しました。



1993

8月

ミネラルウォーター 「アルプス雪物語」発売

1994

9月

「超はっ水加工」 取り扱い開始

1986

12月

東京支店 新工場落成

5階建ての新工場が落成し、近代的な設備を備えた総合クリーニング工場となりました。



1987

10月

東京支店に FAシステムを導入

バーコードを利用した工程管理システムにより、各工程ごとの処理量や実績が確実に把握でき、最適な作業計画が組めるようになりました。

1988

1月

ハウスクエア 事業部を開設

1988

9月

「しみ抜き学校」を 開設

上級しみ抜き技術者のさらなる成長を促すため、個別に技術指導を受けられる「しみ抜き学校」を開設しました。

1991

1月

得意係を「ルートスタッフ」、 店員を「カウンタースタッフ」 に呼称変更

1991

4月

CI導入

創業85周年を機に、企業イメージを見直し、「CI」を導入しました。雲マークをシンボルとし、青をイメージカラーに、白で清潔感、赤でサービスマインド、グレーで品質と技術力を表現しました。



◀ シンボルマーク

Hakuyosha

▲ シンボルロゴタイプ



▲ グラフィックエレメント

社会の
出来事

1986/4月
男女雇用機会
均等法施行

1987/10月
ニューヨーク株式市場
大暴落

1988/3月
青函トンネル
開通

1989/1月
平成と改元

1991/1月
湾岸戦争勃発

1995/1月
阪神淡路大震災
発生

創業100周年と新世紀

HAKUYOSHA HISTORY 1996-2006

1996

3月

創業90周年を迎え、
『白洋舎90年史』を発刊

3月

「新防虫加工」
取り扱い開始

1999

4月

靴クリーニングを
開始

1999

8月

クリスタルクリーニングを
全店で開始

クリスタルクリーニングは、特殊な
繊維保護剤を使用することで、従来
の水洗いよりも穏やかな洗浄を実現
し、ドライクリーニングでは落ちにくい
水溶性の汚れを落とすことができる
画期的な洗浄システムです。



2002

7月

「仕上げ教室」を
開設

「大切な一着を、任せて
安心できる」という
お客様の期待と信頼
に応えるため、技術者の
レベルアップを目指し、
「仕上げ教室」を開設
しました。

2005

5月

「マイスター制度」を開始

クリーニング技術者
資格制度に加え、
上級資格である
「マイスター制度」
を導入しました。



2006

3月

創業100周年を迎える

100周年という大きな節目を迎え、初心に立ち返り、お客さまの
期待に応え続ける企業であるために、新たに基本精神、企業理念、
経営ビジョンを定めました。



2000

1997

4月

ホームページを
開設

1997

10月

ハンガー回収をスタート

廃棄物の減量化とリサイクルを
推進する「容器包装リサイクル
法」の施行に伴い、自然環境を
守るため、ハンガー回収を開始
しました。

2000

1月

ユニフォームレンタル
東京事業所を開設

7月

ユニフォームレンタル
西部事業所を開設

2001

7月

ユニフォームレンタル
福岡営業所を
ユニフォームレンタル
福岡事業所とする

2003

12月

大阪支店吹田新工場
落成

大阪吹田工場は、品質の
向上と生産性の強化を目的
として建設されました。
安全性を確保するとともに、
地域の生活環境に配慮した
低騒音化を図っています。



■ 基本精神

「奉仕の徹底」、「一人代表」、「開拓者精神」

■ 企業理念

「人々の清潔で快適な生活空間づくのために、
たゆまぬ技術革新と感動を与えるサービスを提供し、
社会に貢献します」

■ 経営ビジョン

「お客様第一」、「魅力ある職場」、「自然との調和」

社会の 出来事

1996/7月

新たな祝日
「海の日」施行

1997/4月

消費税が3%から
5%に引き上げ

1999/1月

欧州に新通貨
ユーロ誕生

2000/4月

介護保険法施行

2002/5月

日韓ワールドカップ
開催

2003/4月

SARS流行

2005/3月

日本国際博覧会
「愛・地球博」が開幕

変革の時代と未来を見すえて

HAKUYOSHA HISTORY 2008 -

2011

6月

ユニフォームレンタル横浜事業所
ISO22000を取得

食の安全・安心に対する関心が高まる中、より安全で衛生的なユニフォームを提供するため、食品の安全を確保するための国際標準規格であるISO22000を取得しました。



2018

10月

「グローバル・ベスト・プラクティス・アワード2018」において総合第2位
および「サステナビリティ大賞」を受賞

イタリア・ミラノで開催された国際テキスタイルケア連盟主催の「グローバル・ベスト・プラクティス・アワード2018」において、総合第2位に選ばれました。さらに、地球環境に配慮した取り組みが評価され、「サステナビリティ大賞」も受賞しました。



2022

7月

公式モバイルアプリを
リリース

ライフスタイルに合わせてサービスをご利用いただくため、公式モバイルアプリをリリースしました。



白洋舎
CLEAN LIVING

2022年7月、
公式アプリがスタート!

App Store Google Play

2010

2008

6月

エコポイント
制度を開始

2012

8月

マスコット
キャラクター
「ヨーシャ」誕生

マスコットキャラクターとして、しろくま「ヨーシャ」が誕生しました。工場見学や新店舗出店などの各種イベントを盛り上げています。



2013

6月

ユニフォーム
レンタル
西部事業所
ISO22000
を取得

2014

7月

本社を大田区下丸子へ移転

東京支店および多摩川工場が隣接し、さらに新社屋内にグループ会社が入居することで相互の連携強化を図り、機動力の高い本社運営の実現を目指しました。



2020

2020

10月

集配スタッフは
クリーン・リビング・パートナーに
集配サービスを担うスタッフの呼称を
「クリーン・リビング・パートナー」に
変更しました。



■ 新型コロナウイルス

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は瞬間に世界中へ拡大し、経済・社会活動に深刻な影響を及ぼしました。日常業務の在り方から、取引先との関係、従業員の働き方に至るまで、大きな変化を迫られることとなりました。緊急事態宣言等により、クリーニング事業及びリネンサプライ事業は大幅に需要が低下するなど、経営面で甚大な影響を受けました。この危機を乗り越えるため、DXの推進や構造改革に全社一丸となって取り組んだ結果、2023年度には業績を回復し、過去最高益を上げることができました。変化を力に変え、新たな価値を築いたことが、未来への一歩となりました。

社会の
出来事

2008/9月
リーマン・ショック

2011/7月
地上デジタル放送
に移行

2013/6月
富士山が
世界文化遺産に登録

2014/10月
洗濯表示記号に関する
新JIS規格制定

2018/6月
働き方改革
関連法案成立

2022/4月
民法改正成人年齢を
18歳に引き下げ

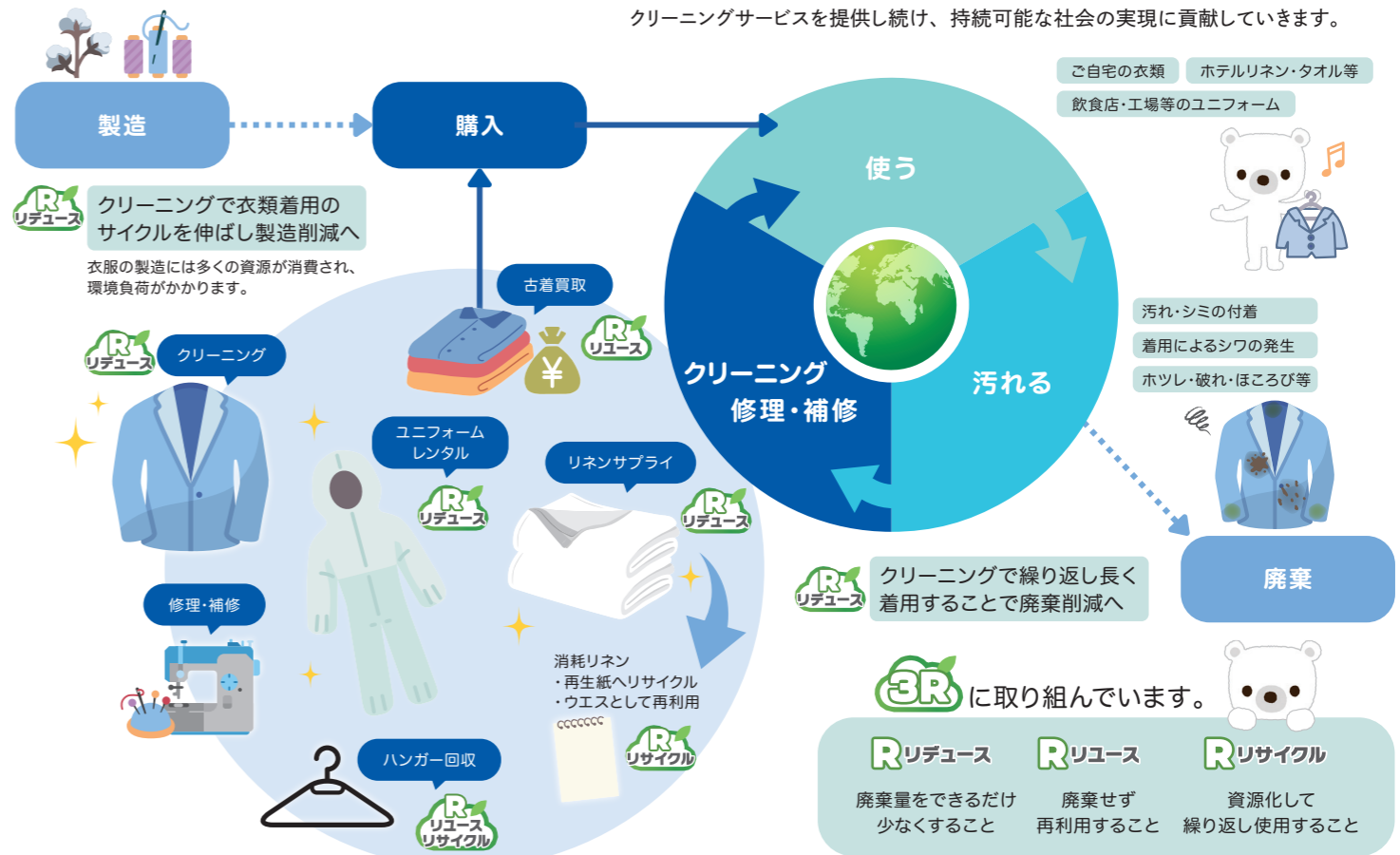
2023/5月
新型コロナウイルス
5類へ移行

その先の未来へ



サステナビリティの取り組み

100年以上前から「1着を長く着る」ことを大切にしてきた白洋舎は、創業当初からの想いを受け継ぎ、サステナビリティを大切にしています。これからも、環境に配慮したクリーニングサービスを提供し続け、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

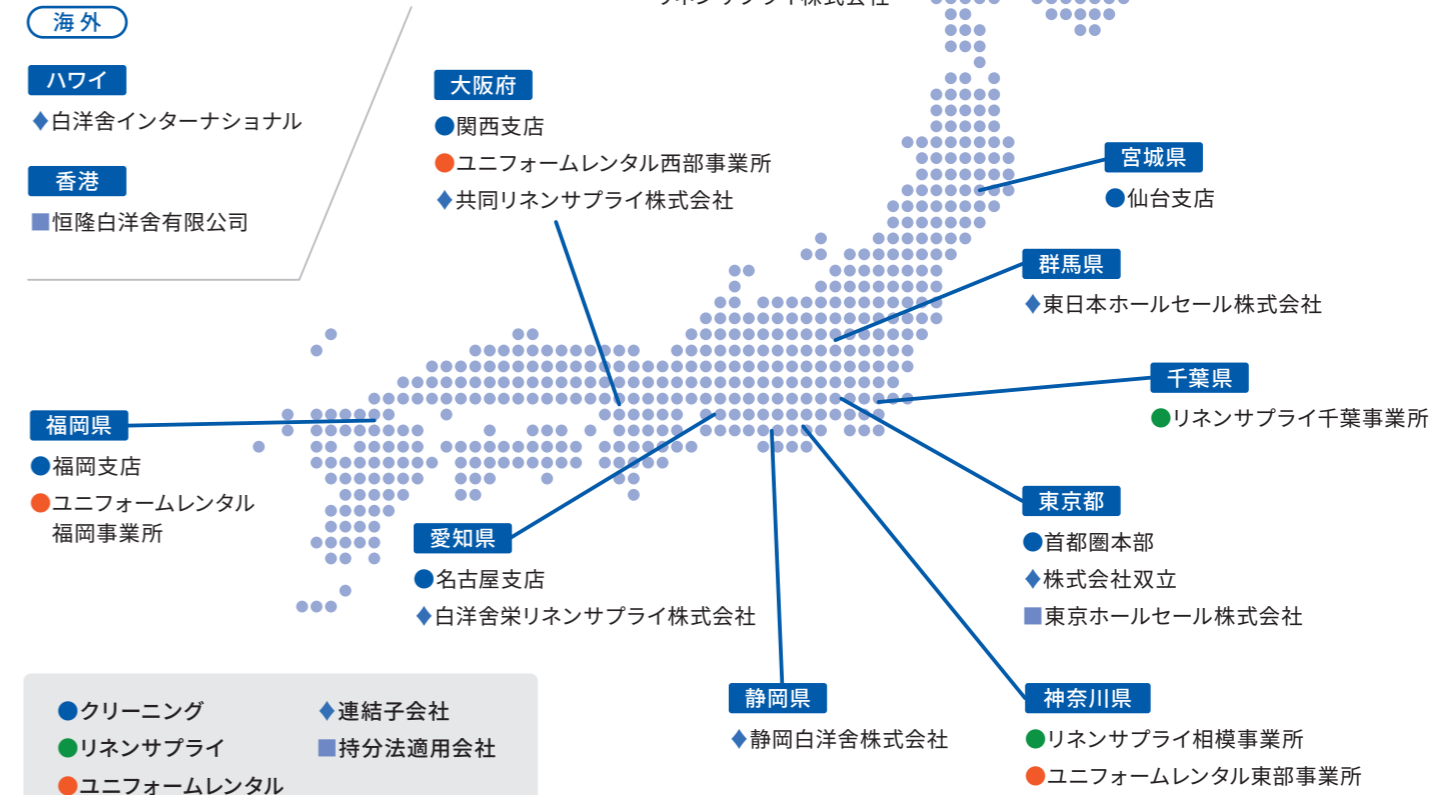


会社概要

商号	株式会社白洋舎
事業内容	クリーニング事業、レンタル事業、不動産事業、 その他の事業
設立	1920年(大正9年)5月2日
資本金	24億1千万円
上場取引所	東証スタンダード市場(コード9731)
代表者	代表取締役社長 五十嵐 瑛一
従業員数	1,328名(2025年12月31日現在)
本社所在地	東京都大田区下丸子2丁目11番8号



ネットワーク





120周年記念サイト

当社の歩みに加え、特別コンテンツも充実させた特設サイトです。

<https://www.hakuyosha.co.jp/120th/>



120周年記念ロゴ

マスコットキャラクター しろくま「ヨーシャ」を起用し、従業員投票で決定した記念ロゴです。



五十嵐健治記念洗濯資料館リニューアル

より分かりやすく、より身近に、当社の歴史と洗濯に関わる歴史や文化を紹介する展示にリニューアルしました。

発行日 2026年3月

発行者 社史編集委員会